

## 事例 4 実践的・体験的な活動を効果的に取り入れ、実感を伴った理解へと結び付ける事例

○学年 第6学年

○主要内容

内容「B衣食住の生活」(4)「衣服の着用と手入れ」ア(ア)(イ)イ、(6)「快適な住まい方」ア(ア)イ

○事例のポイント

- ①児童の生活の中の気付きから、課題解決へとつなげていく。
- ②実験を取り入れることで、実践的・体験的に学び、概念的な理解につなげるようにする。
- ③学んだことや実験結果を根拠として、自分の生活の改善へと結び付ける学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ④スライドによって実験の方法を説明することで、より分かりやすく提示する。実験中も計測や記録にICT端末を活用し、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。

1 題材名 「夏をすずしく さわやかに」 内容B(4)ア(ア)(イ)イ、B(6)ア(ア)イ 第6学年

### 2 題材について

(1) 児童について (省略)

P.122 指導計画作成  
の留意事項(9)

(2) 題材について

本題材は、「B衣食住の生活」の(4)「衣服の着用と手入れ」と(6)「快適な住まい方」との関連を図って設定している。衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着方、住まいの主な働きや季節の変化に合わせた住まい方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活の課題解決に向けて、快適な着方や住まい方を工夫することができるようにすることをねらいとしている。

児童は、季節に合わせた快適な着方や住まい方の学習内容にはあまり高い関心をもっていない。それは調理や布を用いた製作と比べ、実践的・体験的な学習活動を行う場面が少ないこと、目に見えて何かをつくりあげる訳ではないため、家族に喜ばれたり、生活に活かしているという実感をもったりしにくいことが原因だと考えられる。また、着ることや住まうことは生活の中で当たり前のように行われており、意識することが少ないということも理由として挙げられる。しかし、季節に合わせて着ること・住まうことというのは、四季のある日本で気候に合わせて健康で快適に暮らす上では非常に大切な内容である。児童は1日のほとんどの時間、衣服を着用して過ごし、家や学校といった建物の中で過ごす時間も長い。季節に合わせた快適な着方や住まい方について理解することは、児童が日常生活をより健康で快適に過ごすためには欠かせないことである。本題材を通して、暑い季節をより快適に過ごすための衣服の着方や住まい方について実感を伴って理解し、学んだことを自分の生活場面に合わせて活用し、工夫していく力を身に付けることができるようにしたい。

(3) 指導について

指導に当たっては、まず第1時で自分の生活を振り返り、夏の季節をより快適に過ごすための課題に目を向けられるようにする。その際、家庭科の「生活の営みに係る見方・考え方」の「健康・快適・安全」や「持続可能な社会の構築」の視点で自分の生活を振り返り、生活の中に様々な課題や生活をよりよくするための工夫があることを認識することができるようにする。第2・3時では既習事項である冬の季節に合わせた着方と比べながら、夏の季節に合わせた快適な着方について考えていく。夏の装いをイラストで描き表し、衣服の形状や色の特徴に気付いたり、布の機能性を捉えるための実験を行ったりすることで、快適な着方について多面的に考えることができるようにしていく。第4時では、着方に関わって衣服を長く着用することができるよう、洗濯やアイロンがけ、補修といった衣服の手入れについて学習する。さらに第5・6時では、靴下を用いて手洗いの洗濯実習を行う。汚れが付着しやすい箇所や洗い方の手順、手洗いと洗濯機洗いそれぞれのよさや課題などについて、実習を通して考えるようにする。第7・8時は快適な住まい方について考えていく。温度計や照度計を用い

た実験を行いながら、日光の当たり方と部屋の温度との関連性について実感を伴って理解できるようにしていく。着方の学習と関連付けながら、いずれも風通しをよくしたり日光を遮ったりすることで涼しく感じられるようになるということを押さえていく。また、風通しをよくすることで音への配慮が必要になるということにも目を向けられるようにする。第9・10時では、前時までに学習した内容を家庭生活に活用できるよう、自分の生活を見直し、家庭の状況に応じた夏の快適な着方や住まい方についての計画・実践を行う。さらに実践を振り返り、改善策を考えることで、家庭生活上で継続して取り組もうとする意欲を高めていきたい。

### 3 題材の目標

- (1) 衣服の主な働きや、季節や状況に応じた日常着の快適な着方、住まいの主な働きや、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解する。さらに、日常着の手入れが必要であることや洗濯の仕方を理解するとともに適切にできる。 〈知識及び技能〉
- (2) 日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題解決する力を身に付ける。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 家族の一員として生活をよりよくしようと、衣服の着用と手入れや季節に合わせた適切な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解している。</li> <li>・日常着の手入れが必要であることや、洗濯の仕方を理解しているとともに、適切にできる。</li> <li>・住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。</li> </ul>	日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題解決する力を身に付けている。	家族の一員として生活をよりよくしようと、衣服の着用と手入れや季節に合わせた快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

### 5 題材の指導と評価の計画（10時間扱い）

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| 〔1〕夏の生活を見つめよう           | 1時間        |
| 〔2〕すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう | 本時（2/7）7時間 |
| 〔3〕夏の生活を工夫しよう           | 2時間        |

小題材	時間	○ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	○衣服や住まいの主な働きについて理解し、日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせ	①衣服や住まいの主な働きについて理解している。（ワー	①日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住	

夏の生活を見つめよう		<p>た住まい方について問題を見いだして課題を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏の生活について問題点を見だし、学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>クシート)</p> <p>P.122 指導計画作成の留意事項(2)</p>	<p>まい方について問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート)</p>	
すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう	2	<p>○季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>暖かい着方の学習と比較しながら、すずしい着方について考える。</li> </ul>	<p>②季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解している。(ワークシート)</p>		<p>①衣服の着用と手入れや季節に合わせた住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(発言、実験の様子、ポートフォリオ)</p>
	3	<p>○衣服の着用と手入れや季節に合わせた住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すずしい着方についての実験を行い、すずしい着方にふさわしい衣服の特徴を知る。</li> </ul>	<p>P.123 指導計画作成の留意事項(8)</p>		
	4	<p>○日常着の手入れが必要であることについて、理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の手入れの仕方を知る。</li> </ul>	<p>③日常着の手入れが必要であることについて、理解している。(ワークシート)</p>		
	5・6	<p>○洗濯の仕方を理解するとともに適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いの仕方を知り、実験を行う。</li> </ul>	<p>④洗濯の仕方を理解するとともに適切にできる。(ワークシート・確認テスト)</p>		
	7・8	<p>○住まいの主な働きや、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すずしい住まい方について課題をもち、実験をする。</li> </ul>	<p>⑤住まいの主な働きや、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。(ワークシート)</p>		
<p>事例のポイント① 児童の生活の中の気付きから、課題解決へとつなげていく。</p>					

夏の生活を工夫しよう	9	○日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現する。 ・これまでの学習から分かったすずしい着方や住まい方について、発表し合う。 ・家庭でできるすずしいくらし方の工夫を考え、実践の計画を立てる。		②日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方について考え、工夫している。(ワークシート) ④日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(ワークシート)	③衣服の着用と手入れや季節に合わせた住まい方について工夫し、実践しようとしている。(発言、ポートフォリオ)
	10	○日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方について実践を評価したり、改善したりする。 ・家庭実践の振り返りを行い、できたことや改善できそうな点について報告し合う。		(ワークシート) ③日常着の快適な着方や手入れの仕方、季節に合わせた住まい方について実践を評価したり、改善したりしている。(ワークシート)	

6 本時の学習指導 (本時 3/10)

(1) 目標

- ・季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解する。 (知識及び技能)
- ・衣服の着用と手入れや季節に合わせた住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (・) 評価規準 (◇) 【評価の観点】(評価方法) 手立て (→)
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。  ・学習課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にイラストから確認したすずしい着方のポイントを確認する。(首周りが開いている、肌の露出が多い、薄い色、薄手の生地、肌ざわりがよい、汗を吸う素材、早く乾く素材、日を遮る等)</li> <li>・前時で挙げた「汗を吸う素材」や「肌ざわりがよい」といった点に着目し、本時では素材による違いを調べていくことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題 夏をすずしく快適に過ごすために、どのように衣服を着たらよいのだろうか。</p> </div>

20	<p>2 実験の方法を確認し、実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の吸水性</li> <li>・布の吸湿性</li> <li>・肌ざわり</li> </ul> <p>事例のポイント④ 実験中の計測や記録にICT端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>事例のポイント② 実験を取り入れることで、実践的・体験的に学び、概念的な理解につなげるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の衣服のタグからどのような素材が使われているのか確認し児童の身近にある衣服の布で実験を行うようにする。</li> <li>・吸水性の実験の方法についてスライドで示し、共通理解を図る。</li> </ul> <p>事例のポイント④ スライドによって実験の方法を説明することで、より分かりやすく提示する。</p> <p>〈吸水性実験の方法〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①布をぴんと張る。</li> <li>②1 cmの高さから水を1滴垂らす。</li> <li>③水が完全に吸収されるまでの時間をタイマーで計測する。</li> </ol> <p>〈判定基準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎10秒未満で全て吸水</li> <li>○10秒以上2分未満で全て吸水</li> <li>△全部ではないが吸水のあとが見られる</li> <li>×全く吸水しない</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてICT端末のタイマーを使ったり、記録映像を撮ったりしてもよいことを伝える。</li> <li>・肌ざわりについては、自分が着用するとしたらどうかということも考えながら記録するようにする。</li> <li>・布の吸湿性については、布の袋とビニール袋を片手ずつ着用して比較し、布が空気を通し湿気を吸い取ることで、より快適な状態を保てるということに気付けるようにする。</li> </ul>															
5	<p>3 実験の結果を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果を全体で確認する。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="534 1052 1412 1288"> <thead> <tr> <th>使われている服（素材）</th> <th>吸水性</th> <th>肌ざわり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウインドブレーカー（ナイロン）</td> <td>△</td> <td>ツルツル</td> </tr> <tr> <td>Tシャツ、下着（綿）</td> <td>◎</td> <td>サラサラ</td> </tr> <tr> <td>スーツ、制服（ポリエステル）</td> <td>×</td> <td>サラサラ</td> </tr> <tr> <td>スポーツウェア（ポリエステル吸水・速乾）</td> <td>◎</td> <td>サラサラ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリエステルは吸水速乾性の高いものとそうでないものの2種類を用意し、比較することで、同じ素材でも加工によって違った機能をもたせることができるということにも触れる。</li> <li>・実験結果から、夏には吸水性や速乾性の高いもの、肌ざわりがよいものが布の素材として適していることを確認する。</li> </ul>	使われている服（素材）	吸水性	肌ざわり	ウインドブレーカー（ナイロン）	△	ツルツル	Tシャツ、下着（綿）	◎	サラサラ	スーツ、制服（ポリエステル）	×	サラサラ	スポーツウェア（ポリエステル吸水・速乾）	◎	サラサラ
使われている服（素材）	吸水性	肌ざわり															
ウインドブレーカー（ナイロン）	△	ツルツル															
Tシャツ、下着（綿）	◎	サラサラ															
スーツ、制服（ポリエステル）	×	サラサラ															
スポーツウェア（ポリエステル吸水・速乾）	◎	サラサラ															
8	<p>4 夏を快適に過ごすための着方についてまとめる。</p> <p>事例のポイント③ 学んだことや実験結果を根拠として、自分の生活の改善へと結び付けることで、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学んだ内容や本時の実験結果をもとに、夏を快適に過ごすための着方について、ポイントを言葉やイラストでまとめる。</li> </ul> <p>◇季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解している。 【知識・技能】（発言、ワークシート）</p> <table border="1" data-bbox="534 1680 1412 1960"> <tr> <td data-bbox="534 1680 686 1960"> <p>おおむね満足できる状況（B）</p> </td> <td data-bbox="686 1680 1412 1960"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果や前時の学習内容を基に、夏の季節に適している布の特性について理解している。</li> <li>→暑い季節に適した衣服が分からない児童には、前時の学習内容や本時の実験結果を振り返って形や色、吸水性等に注目して考えたり、生活場面を具体的に思い出して考えたりできるように助言する。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>おおむね満足できる状況（B）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果や前時の学習内容を基に、夏の季節に適している布の特性について理解している。</li> <li>→暑い季節に適した衣服が分からない児童には、前時の学習内容や本時の実験結果を振り返って形や色、吸水性等に注目して考えたり、生活場面を具体的に思い出して考えたりできるように助言する。</li> </ul>													
<p>おおむね満足できる状況（B）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果や前時の学習内容を基に、夏の季節に適している布の特性について理解している。</li> <li>→暑い季節に適した衣服が分からない児童には、前時の学習内容や本時の実験結果を振り返って形や色、吸水性等に注目して考えたり、生活場面を具体的に思い出して考えたりできるように助言する。</li> </ul>																

7	5 本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を通して分かったことやどのように取り組んだのか、さらに調べてみたいことなどを振り返るようにする。</li> </ul>
		<p>◇衣服の着用と手入れや季節に合わせた住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: center;"><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> (発言、実験の様子、ポートフォリオ)</p>
	おおむね満足できる状況 (B)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の取り組み方についてポートフォリオに記載することができている。</li> <li>→記載できていない児童には、自分がどのような役割を担って実験に取り組んだのかを考えるように助言する。</li> </ul>

## 7 学習評価の具体例

### <実験結果>

○吸水性の実験結果

調べた衣服	判定	調べた衣服	判定
Tシャツ・下着 (綿)	◎	スーツ・制服 (ポリエステル)	×
ウインドブレーカー (ナイロン)	△	スポーツウェア (ポリエステル)	◎

9割以上の児童は同様の実験結果となった。実験結果とその素材が使われている製品とを結び付けることで、下着やTシャツ、タオルには吸水性が高く肌触りの良い綿が多く使われているということを理解することができた。また、実験を行う中で、吸水が早だけでなく、乾くのが早いことも快適に衣服を着用するためには大切であるということに気付く児童の姿も見られた。

### <ワークシートの記述>

○夏に快適な衣服とはどのようなものか、理由と共にかきましよう。



○夏に快適な衣服とはどのようなものか、理由と共にかきましよう。

形は半そで、色のうすく、吸水性や吸湿性がある服を着るとよい。

#### <知識・技能>②

※「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例

- ・そで口が広い風通しの良い服
- ・みじかい、はだが出る服
- ・Tシャツなどの吸水性がある服

形は半そで、色のうすく、吸湿性や吸水性がある服を着るとよい。なぜなら汗をすうものや熱を吸収しにくい服ならすずしく過ごすことができるから。

衣服の素材や形状、色など複数の視点について、なぜそれを選択するとよいのか、根拠をもとに理由を具体的に記述していることから、「おおむね満足できる」状況 (B) を上回る「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

<ポートフォリオの記述>

ポートフォリオ (できるようになるまでがんばったこと)

私は今日の実験で、いろいろな布の違いが分かるように、よく観察しました。

<主体的に学習に取り組む態度>①

※「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例

私は今日の実験で、いろいろな布の違いが分かるように、よく観察しました。布によってさわり心地や給水時間が全く異なるところが面白かったです。自分が普段着る服でも試してみたいです。

実験したことをもとに、自分が興味をもったことや次がんばりたいことも書いていることから、「おおむね満足できる」状況 (B) を上回る「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

<第5・6時の確認テスト>

問題 Aさんは、気温が高く、晴れた夏のある日に、次のような衣類、着方で学校に行こうとしています。学校までは、歩いて30分かかります。この日一日中、より快適に過ごすための衣類の選び方や着方について、暑さを調節したり、保健衛生上の働きから考え、Aさんへのアドバイスを理由もわかるように、下に書きましょう。

<Aさんの衣類、着方>

- ・半そで、えりつきの黒いシャツ、長ズボン
- ・暑いので、Tシャツの下には何も着ていない。
- ・Tシャツは綿でできている。
- ・暑いので、帽子をかぶっていない。



<Aさんへのアドバイス>

- シャツの色は、黒でなくうすい色を着たほうが、すずしそうに見える。
- ズボンは、長ズボンでなく半ズボンの方が、風とおしがよくすずしい。
- 暑くても、熱中症を防ぐため、ぼうしをかぶったほうがよい。

<知識・技能>

※「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例

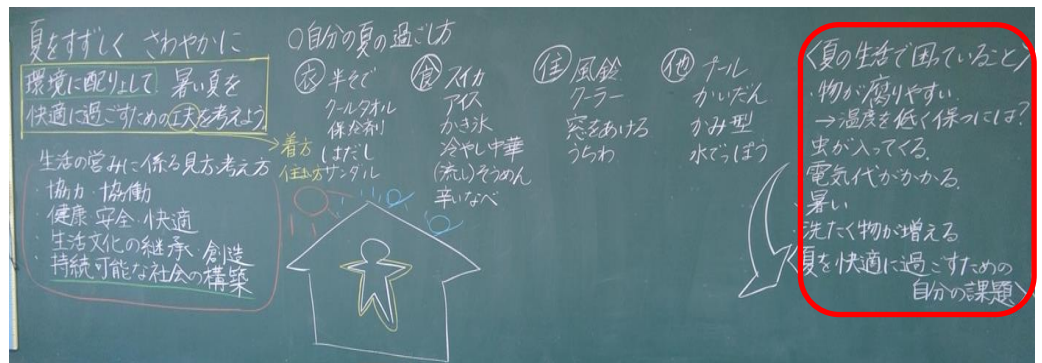
- ・えりのないシャツのほうが、首まわりの風とおしがよく、すずしい。
- ・シャツの下には、汗を吸うために下着を着たほうが衛生的でよい。

シャツの形や下着の着用についても、具体的に記述していることから (A) と判断した。

8 指導の実際

①児童の生活の中の気づきから、課題解決へとつなげていく。

夏の生活で困っていることやよりよくしたいことに目を向け、自己の課題を設定し、題材を通して課題を解決する方法を習得していくという見通しをもてるようにする。



②実験を取り入れることで、実践的・体験的に学び、概念的な理解ができるようにする。

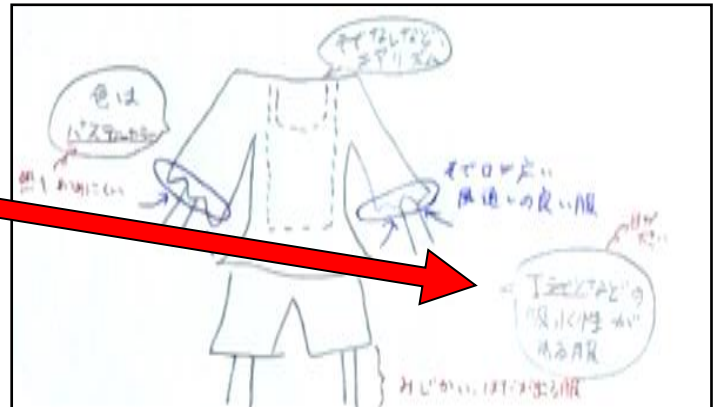


吸水性や吸湿性、温度、照度、音の大きさなど、体験したり数値化したりすることで、実感を伴った理解へと結び付けられるようにする。

③学んだことや実験結果を根拠として、自分の生活の改善へと結び付けていく。

○吸水性の実験結果

調べた衣服	判定	調べた衣服	判定
Tシャツ・下着 (綿)	◎	スーツ・制服 (ポリエステル)	×
ウインドブレーカ ー(ナイロン)	△	スポーツウェア (ポリエステル)	◎



吸水性が高い衣服はどれかという知識と自分の生活とを結び付け、生活をよりよくするためにどのようにするとよいのか考えられるようにする。

④スライドによって実験の方法を説明することで、より分かりやすく提示する。実験中の計測や記録にICT端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組めるようにする。

ICT端末で時間を計測したり、映像や写真で結果を記録したりすることで、より主体的に活動に取り組んだり、実験を振り返る際にも活用したりできるようにする。

